

基本施策2 たくましい子どもの育成と学校体育・スポーツの充実

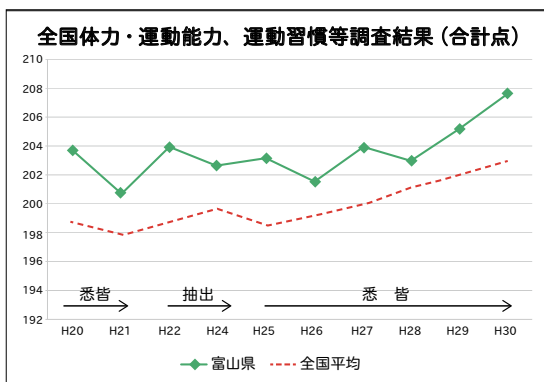
施策目標

生涯にわたりスポーツに親しむ契機となる学校体育・スポーツ活動の充実による、運動やスポーツに積極的に取り組む子どもの育成

現状と課題

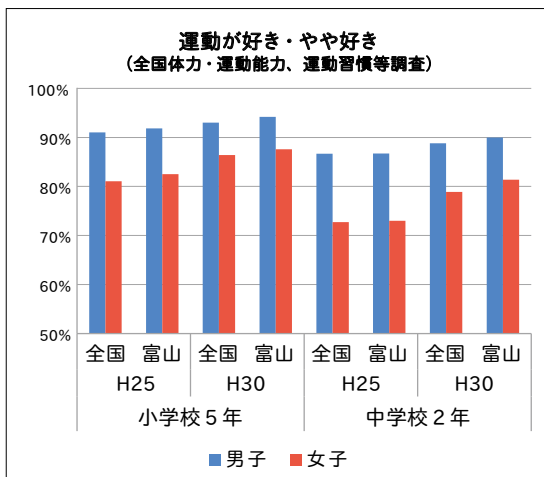
1 本県の子どもの体力・運動能力

子どもの体力・運動能力は、昭和60年頃をピークに長期的な低下傾向が全国的にみられていましたが、平成20年度から実施されている全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小5・中2[※]）の結果では、本県の児童生徒の体力・運動能力は概ね全国平均を上回っており、近年では上昇傾向が見られるようになってきました。平成30年度には、同調査で過去最高得点（207.53点）を獲得し、過去最高順位（全国11位）となりました。



「運動が好き・やや好き」と回答した児童生徒の割合に増加傾向が見られますが、小学校段階と比べ中学校段階では減少しています。

今日の生活の中で、利便性の向上や安全性の確保は、私たちのライフスタイルを大きく変化させています。日常生活だけでなく、自由な時間を含めて身体活動の機会は減少しており、子どもたちも例外ではありません。そのような中で、子どもたちに生涯にわたり健康で豊かなスポーツライフを実現するための資質や能力を育成するためには、保護者や地域が子どもを取り巻く環境を十分に理解し、子どもたちが体を動かす機会を意識的に作っていくことが必要です。運動やスポーツから得る楽しさや喜びを感じることで、日ごろの取組や体力向上につながることから、「すること」に加えて、「みること」、「ささえること」、「知ること」など、子どもたちの適正



資料：全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省・スポーツ庁）を基に県保健体育課が作成

等に応じて、運動やスポーツと多様に関わる中で、「する」きっかけを作っていく工夫も必要です。

また、県では、生活習慣や食習慣の定着を図る「とやまゲンキッズ作戦」（健康づくりノート）や「毎日しっかり朝ごはん」運動などに取り組んでいます。「よく食べ、よく動き、よく眠る」ことは、健康でたくましい心と体の基礎を作るものであり、そのため、幼稚園や保育所（園）、認定こども園、学校と家庭が連携し、子どもたちの望ましい生活習慣の定着に向けた取組を一層推進していく必要があります。また、このような取組や子どもの体力向上について、県のホームページ等を活用して積極的に情報提供し、啓発に努めていく必要があります。

2 学校における体育・スポーツ活動の現状

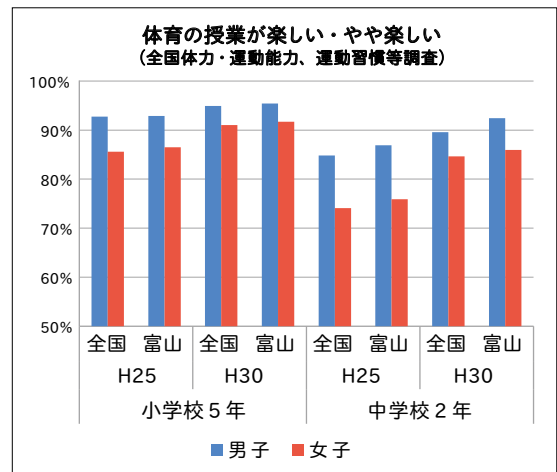
体育の授業をはじめとする学校における体育・スポーツ活動は、日常生活で体を動かす機会が減少している中、その重要性はより一層高まっています。

県では、幼稚園や学校で、運動好きでたくましい心と体をもった子どもを育成するため、各校で作成する「元気っ子育成計画」を推進してきました。また、「体育実技指導者講習会」を開催し、教員の実技指導力の向上を図るとともに、「小・中学校体育主任研修会」を開催し、児童生徒の体力の現状把握や各校の体力向上計画の共有を図り、運動遊びや体育授業の質の向上や体育的行事の充実に向けた研修を深めてきました。

平成25年度と平成30年度のデータを比較すると「体育の授業が楽しい・やや楽しい」と回答した児童生徒に増加傾向が見られ、割合も非常に高いという結果が見られました。しかし、小学校段階と比べ中学校段階では、楽しいと回答している生徒の割合が減少しています。前述した「運動が好き・やや好き」と回答した児童生徒の割合と非常によく似た傾向があることから、一層の体育授業の充実を図ることで、子どもたちの体力の向上と運動好きな子どもたちの育成に努める必要があります。

また、小学校では、始業前や休み時間、放課後等に運動に取り組む目標となる体力向上シート「みんなでチャレンジ3015」に取り組んでいます。少人数や省スペース化、高難易度、コーディネーションの要素を含んだ運動遊びを新規導入した運動プログラム『立山編』と、オリパラ教育や豊かなスポーツライフを実現する観点（「みる」、「ささえる」、「知る」）に対応した新プログラム『富山湾編』を令和元年度より導入し、学校教育活動全体を通じた取組を推進しています。

今後も引き続き、児童生徒の関心・意欲を高めながら、実態や技能等に合った体育指導が展開できるよう、教員の指導力の向上を図るとともに、地域のスポーツ指導者等と十分に連携し協力を得ながら、実技指導の充実にも努める必要があります。



資料：全国体力・運動能力、運動習慣等調査（文部科学省・スポーツ庁）を基に県保健体育課が作成

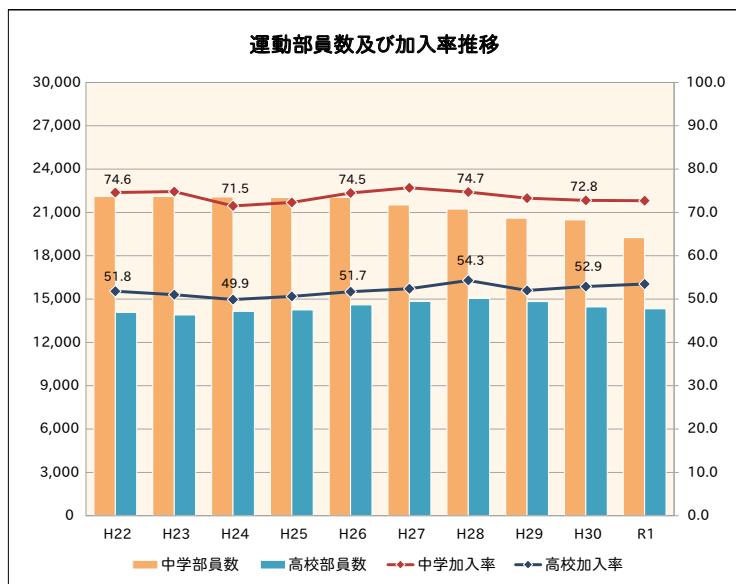


資料：体力向上シート「みんなでチャレンジ3015」

3 運動部活動の現状

運動部活動は、学年や学級の枠を越え、部員同士が切磋琢磨し、より高い水準の技能や記録に挑戦する中で、スポーツの楽しさや喜びを味わうとともに、協調性や忍耐力を養うなど、学校教育活動において重要な役割を果たしています。

本県の運動部活動加入率は、中学校72.6%、高等学校53.5%（いずれもR1）と全国平均を上回っているものの、少子化による生徒数の減少や専門的な技術指導ができる教員の不足等により、生徒のニーズに対応できない状況が増えてきているだけでなく、単独の学校では運動部活動を継続することが困難な場合も出てきています。



資料：県保健体育課調べ

このため、専門的な指導力を有する地域の優秀な指導者の活用と、複数校による合同運動部活動を一層推進していく必要があります。

また、生徒にとって望ましいスポーツ環境を構築するという観点に立ち、平成30年3月に、スポーツ庁が「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」（以下「国運動部活動ガイドライン」）を策定し、国運動部活動ガイドラインに則った各都道府県の方針の策定が求められたことから、県教育委員会では、「富山県部活動の在り方に関する方針」を策定しました。

具体的方策

1 運動好きな子どもの育成と体力向上の取組の推進

(1) 学校等における体力向上の取組の推進

子どもたちの体力を向上させるため、学校等の実態に応じた計画的・継続的な取組を推進します。

- 県体力向上推進委員会で、体力・運動能力調査の結果等を踏まえ、本県の子どもの体力等の状況の調査・分析・考察を行い、子どもの体力向上の課題と目標を明らかにして、県全体での取組を推進します。
- 幼稚園、小、中、高校において各校（園）が「元気っ子育成計画」を立案し、1校（園）1運動など、各校（園）の実態に応じた特色のある体力向上の取組を推進します。
- 体力向上シート「みんなでチャレンジ3015」を児童が積極的に活用し、目標をもって意欲的に体力向上に取り組むとともにスポーツとの多様な関わり方を図ることができるよう努めます。

(2) 望ましい生活習慣を身につけ積極的に運動やスポーツに取り組む子どもの育成

子ども自身が体を動かすことの楽しさを発見し、積極的に運動やスポーツに取り組むよう、幼稚園や保育所、学校、地域等でのスポーツ活動を充実させるとともに、子どもたちが元気に活動するための基礎となる望ましい生活習慣や食習慣を身につけるための取組を一層推進します。

- スポーツ少年団をはじめとする地域スポーツクラブは、子どもたちの健全育成や体力向上に大

きな役割を果たしており、今後も各クラブの主体的な活動を支援し、子どもたちのスポーツ機会の充実に努めます。

- 幼稚園教諭、保育士及び教員が運動遊びや学校体育活動の充実の必要性、系統性や連続性のある指導について理解を深め、その資質や指導力を高めるための研修会を支援し、幼児期から中学生期までの運動習慣の定着と運動好きな子どもの育成に努めます。
- 子どもたちが元気で楽しく充実した一日を過ごすうえで欠かせない睡眠や朝ごはんの大切さを啓発するなど、望ましい生活習慣や食習慣の定着に努めます。

2 学校における体育・スポーツ活動の充実

(1) 地域と連携した学校体育・スポーツ活動の推進

教員と専門的な技術指導力を有する地域のスポーツ指導者等が協力・連携を図り、学校体育・スポーツ活動の一層の充実に努めます。

- (公財) 日本スポーツ協会が管理する「公認スポーツ指導者マッチング」サイトや総合型クラブやスポーツ少年団、スポーツ推進委員、大学、企業等との連携や、指導者を登録・紹介する「スポーツ指導者パスネットとやま」の活用により、地域のスポーツ人材を小学校体育授業等へ派遣するなど、各学校が地域のスポーツ人材の活用を推進する体制の整備に努めます。

(2) 教員の指導力の向上

児童生徒が生涯にわたってスポーツを楽しむことができるよう、その基礎を培う上で重要な役割を果たしている学校体育に関わる教員の指導力の向上に努めます。

- 児童生徒の発育・発達段階の特性を考慮し、個に応じた指導ができるよう、学校体育研究団体等と連携した実践研究や、研修会・講習会等の開催を通して、教員の指導力の向上を図ります。
- 学習指導要領においては、体づくり運動や武道、ダンスなど様々な領域を取り扱うことから、多様な授業環境の構築とともに、安全で楽しい授業内容の工夫改善につながるよう、研修会等の充実に努めます。

(3) 少子化等に対応した運動部活動の推進

運動部活動は、教育課程との関連を図ることが学習指導要領に明記されるなど、学校教育活動として重要な役割を担っているものの、専門的技術指導ができる教員の不足や少子化による部員数の減少などにより、生徒のニーズに応えきれていない状況にあることや教員の働き方改革の観点からも、部活動指導員の配置の促進やスポーツエキスパートの派遣等、地域のスポーツ人材の活用を図り、運動部活動の一層の活性化に努めます。

- 生徒の多様なニーズに応じた活動を行うことができるよう、これまでの地域のスポーツ指導者や、トレーナー、栄養士等を活用する「スポーツエキスパート派遣事業」を継続するとともに、研修会や講習会を充実させ、教職員をはじめとした部活動指導者の育成や指導力の向上に努めます。

- 全国大会で優勝等の指導経験が豊富な指導者を中学・高校運動部へ派遣する「スーパーコーチ派遣事業」を継続するとともに、中体連や高体連と連携し、学校や競技スポーツ団体のニーズを踏まえながら事業の充実を図り、一層の競技力の向上と運動部活動の活性化に努めます。
- 少子化等により、団体競技を中心に運動部活動の継続が困難な状況にあることから、学校体育団体と連携し、複数校合同運動部活動の取組を支援します。
- 適切な指導者をもたず、生徒のニーズに応えられていない運動部がある学校への専門的な指導力をもつ教員・部活動指導員の配置に取り組みます。

(4) 指導手引き等を活用した合理的かつ効率的・効果的な運動部活動の推進

- 中央競技団体が作成した、運動部活動用指導の手引きを活用し、合理的でかつ効率的・効果的な活動を推進します。
- 競技種目の特性等を踏まえた科学的トレーニングの積極的な導入等により、休養を適切に取りつつ、短時間で効果が得られる指導に取り組みます。
- 発達個人差や女子の成長期における体と心の状態等に関する正しい知識を得た上での指導に努めます。

3 体力向上や運動習慣等に関する啓発活動の展開

(1) 子どもの体力向上に関する情報提供

次代を担う子どもの体力が低下することは、将来の明るく豊かで活力ある社会の形成にとって極めて憂慮すべきことです。運動が好きで意欲的に体を動かす子どもたちが育まれるよう、学校をはじめ家庭や地域の連携した取組が推進されるよう積極的な情報提供に努めます。

- 保護者をはじめとした県民全体が、子どもの体力の重要性について正しい認識をもつよう、新聞・テレビなどマスメディアへの積極的な情報提供などにより、その啓発に努めます。
- 小学校や中学校において、特色ある体力向上の取組を実施している学校をホームページ等で紹介し、子どもの体力向上を推進しようとする気運を高めるよう努めます。

(2) 体力テストや運動の記録を競い合う体力ランキングの実施

子どもたちがより積極的に運動やスポーツに取り組むことができるよう、学校や学級などの集団で競い合う体力ランキングを実施します。

- 体力テストなどの運動記録を競い合う体力ランキングを実施するとともに、インターネット等で自分たちの成果を他校と比較できるシステムを構築し、学校や学級の積極的な取組を推進します。
- 体力ランキングで上位となった学校等を顕彰し、子どもたちの運動に対する意欲の向上を図ります。

施策目標達成のために参考とする指標

指標名及び指標の説明	現 況	R11
体力・運動能力の合計点 全国体力・運動能力調査における体力合計点	全国11位 (H30)	全国上位
運動に取り組む児童の割合 体力向上シート「みんなでチャレンジ3015」の目標点に到達した小学生の割合	96.6% (H30)	98%